

前	奏	黙想	祈	禱	
招	詞	ヨハネによる福音書 4:23	讃	美	歌 418
讃	美	歌 88	過	ぎ	に
祈	禱		献	金	
信仰告白	使徒信条	566	讃	詠	547
聖	書	エレミヤ書 6:13~14	主の	祈り	564
		ローマの信徒への手紙 2:4	頌	栄	539
讃	美	歌 90	祝	禱	
説	教	『罪が平和の礎になる』	後	奏	

80年前の一昨日8月15日、天皇が敗戦宣言した。12年後に私は生まれ、子供の頃、町角ではまだ傷痍軍人がハモニカを吹いていた。か細い音の軍歌に耳奪われて歩を止めたが、ほどなく母にぐいと手を引かれて立ち去った。傷痍軍人が物乞いしながら何かを訴えていたことは、幼心にも分かった。

「彼らは、わが民の破滅を手軽に治療して、平和がないのに〔平和、平和〕と言う(エリヤ6:14)」。破滅を隠して平和を標榜し、「預言者から祭司に至るまで皆、欺く(6:13)」らしい。日本の敗戦後、軍国調子はさっと民主主義に転身し、深く負った傷を「手軽に治療して、平和」を声高に唱えた。日本経済は朝鮮戦争で急速に復興したが、朝鮮韓国は地獄になった。傷痍軍人が吹く哀切のハモニカは、戦争には勝者などなく、治療しても容易に癒されない「傷」が遺る悲惨を、寂しく物語っていた。

「破滅を手軽に治療して、平和がないのに〔平和、平和〕と言う(6:14)」。幾度も読んだ預言だが、ドキリとした。このドキリは何か。キリストの救いを「安価な恵み(ボンヘッフアー)」で大盤振る舞いしてはいないか、という怖れかもしれない。人間はキリストの命(高価な恵み)で贖われている。それを安価な恵みにしてしまわぬよう、この身に受けている愛への「服従」を強調すべきではないか。

「神の憐みがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのか(マ2:4)。「悔い改め」は神の憐みによって導かれる。これまでくり返し語ったが、悔い改めの原意は「180°の方向転換」。だからそれを「改心」ではなく、注意深く「回心」と表記する。

人は心を入れ替えて改心することはあろう。だが回心ではない。「あの戦争」の後、大きく方向転換をした者は多いが、回心ではない。欧米列強の植民地支配から、アジア諸国が独立するための「大東亜共栄圏」のはずが、結局は日本の傲慢と強欲を拡大させたことを猛省しても、回心ではない。

敗戦後、教会には多くの人がやって来た。彼らはそれまでの自分を省み、新たな道を見つけようとキリストの教えに希望を探した。それは戦後に限らず常にそうだろう。私自身も大学生の時、若者らしく道を求めて教会の扉を叩いたのだから。だが「回心／悔い改め」ではない。私の場合は左右に60°ずつくらいの方向変更は覚悟していた。戦後はいたく改心して180°方向転換した者が多くいた。しかしこれは、原典の原意通りではあるが、それでも悔い改めてではなかった。なぜならば、そこには悔い改めの軸となる「罪」がないからだ。本当の罪は、自己を反省して届くような所にはない。

「神の憐みがあなたを悔い改めに導く(2:4)」。己が罪を軸にしての「悔い改め／転換」は、神の憐みの光を受けてこそ起る。教会では「罪」と言う言葉を手軽に使うが、教えられ、自覚的に探して「あつあつ」と分かるようなものではない。また痛みや苦しみで方向転換したからといって、見出せるものでもない。罪とは、ただ「神の憐み」の光の中でこそ明らかになる、人間の奥底の暗闇なのだ。

神はキリストとして、憐みの光で罪を照らし、「豊かな慈愛と、寛容と、忍耐(2:4)」によって受け入れて下さる。つまり「悔い改め」とは、キリストとの出会いなのだ。裁きでも厳しきでもない。キリストの慈愛と寛容と忍耐が、私に悔い改めを起こす。光で照らされる罪、この罪が平和の礎となる。

悔い改めは反省とは違う 十字架の光を浴び キリストと出会うこと その光の中で己が罪を見る
悔い改めてキリストを反射 光を受けて返す 反射は一人ひとり異なる 闇が深いほど純度は高い

「いき」8月号ができました。9月号以降の原稿も募集しています。どんなことでも気軽に御投稿ください。牧師の動き:8/18(月)午前、河野書記役員と共に山梨県庁へ(宗教学人格取得のために)。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。